日本顎口腔機能学会
第 10 回 顎口腔機能セミナー 開催報告

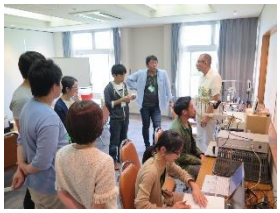
校長　山崎 要一（日本顎口腔機能学会・会長，鹿児島大学）
セミナー企画委員長　井上 誠（顎口腔機能セミナー企画担当理事，新潟大学）

日本顎口腔機能学会 第 10 回 顎口腔機能セミナーは，鹿児島大学 山崎要一先生を校長として，平成 29 年 9 月 8 日から 10 日の 3 日間，「これからの機能研究が向かうべき道を探る」をテーマに，新潟市西区のメイワサンピアで開催された．セミナーには，45 名の受講生と，24 名の講師・インストラクター，3 名の理事，スタッフ 8 名の計 80 名が参加した．

1 日目は，ます集合写真撮影，開校式が行われた．続いて，昭和大学 井上富雄先生による座学①「咀嚼機能 - その制御機構 - 」と題して．咀嚼機能に関わる顎の起源，進化論的な導入から，歯根膜や閉口筋からの感覚入力が咀嚼運動に与える影響，大脳皮質咀嚼野やセントラルパターンジェネレーターなどの咀嚼の中枢神経機構について講義された．その後，各ワークショップ（WS）講師から，WS の概要，目的の説明があった．岡山大学 川上滋央先生により WS①「Arduino を使った携帯型計測装置製作 第 2 弾 - 手首装着型の VAS とイベントマーカー記録装置 - 」，北海道大学 山口泰彦先生により WS②「日常生活での発語時咬筋活動」を検証する，松本歯科大学 増田裕次先生により WS③「口唇閉鎖トレーニングの有効性について」の説明があった．続いて，日本歯科大学 志賀博先生により WS④「咀嚼機能に関する検査法と舌圧検査法の習得，意義」，徳島大学 鈴木善貴先生により WS⑤「肩こり ～口腔習癖や姿勢との関連性～」，最後に，岩手大学 佐々木先生より，WS⑥「多チャンネル表面筋電計を用いた顎口腔機能の評価」の説明があった．

その後，アイスブレイクとして，レクレーション，-チーム対抗ピンポン大会- が行われた．序盤はやや緊張した様子であったが，後半は各チームとも講師・インストラクターを交えて，アイスブレイクに相応しい熱戦となった．その後の夕食・懇親会では．佐々木啓一先生の乾杯の御発声のあと，各グループでバーベキュー楽しんだ．レクレーションの表彰も行われ，WS③チームの優勝発表があり，優勝賞品として学会より「新よくわかる顎口腔機能」が参加者全員に授与された．懇親会後も遅くまで実験準備に取り組むグループもあり，初日から活発なセミナーとなった．

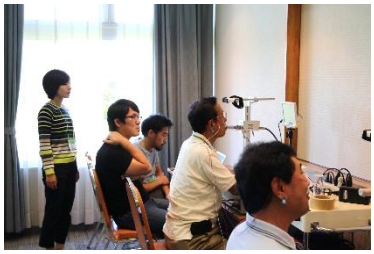
写真　１日目



2 日目は，新潟大学 井上誠先生による座学②「嚥下機能」から始まった．講義では嚥下運動が歯科領域で注目された背景から，嚥下惹起における大脳皮質・上位脳と末梢感覚入力の関わり，嚥下運動おける咀嚼運動の寄与が提示された．続いて，北海道大学 山口泰彦先生による座学③「ウエアラブル測定機器」が行われ，ウエアラブル測定機器における生体信号測定について，心電図波形解析や睡眠ポリグラフを例に説明された．またウエアラブル咀嚼筋筋電計による睡眠時ブラキシズムの診断の試みが紹介された．座学の後，各 WS でグループ実習を行った．研究デザイン，プロトコールを決定し，実際にデータ採取と解析を行った．

夕刻より，日本歯科大学 志賀博先生による座学④「生物統計学の基本」が行われた．生物統計学には，母集団の特性の理解した上で，離れ値の検証といったデータの観察を行うことの重要性が示された．続いて，岡山大学 皆木省吾先生による座学⑤「プレゼンテーションに至るまで」が行われ，研究活動においては，研究の価値観，新事実の発見や問題解決，社会的利益を考えるプロセスこそが魅力的なプレゼンテーションにつながるという考え方を，顎関節症患者の筋電図生データからの疑問と特発性歯痛の診断への展開を例に示された．夕食後は，各 WS グループに分かれて，データの解析やプレゼンテーションの準備を引き続き行い，作業は深夜まで続き，中には朝方まで行ったグループもあった．

写真２日目



３日目には，東北大学 佐々木啓一先生により座学⑥「トランスレーショナルリサーチ」と題した講義があった．歯科の発展には医療生物学的な視点ではなく，医療イノベーション，社会還元を見据えた異分野との連携・融合が重要であるこが実例で示された．続いて，新潟県歯科医師会 木戸寿明先生による座学⑦「開業医が求めるこれからの歯科医学研究」があり，新潟県のう罹患状況の年次推移を導入に，臨床現場においては，咬合状態の経時的変化の定量化，短縮歯列の意義の検討，超高齢社会における咀嚼機能の定量化などが期待されることが示された．

その後，井上誠先生，辻村恭憲先生を座長に各 WS グループによる発表が行われた．準備はセミナー内の限られた時間であったが，どのグループも充実した発表内容となっており，活発な意見交換が行われた．続いて，閉校式を行い，集合写真を撮影して盛会のうちに終了した．

写真３日目

最後に，この度のセミナーに学術大会の開催にあたり，御参加，御協力を頂きました全ての皆様に心から感謝の意を表しますとともに，本学会，顎口腔機能セミナーの益々のご発展を祈念申し上げます.